

氏名	浅井 宏美	部署	看護学科	職名	講師
研究分野	母性看護学、助産学				
学位	博士(看護学)				
学歴	2008年聖路加看護大学大学院看護学研究科博士前期課程修了 2015年聖路加国際大学大学院看護学研究科博士後期課程修了				
経歴	2008年首都大学東京健康福祉学部看護学科助教、2010年聖路加看護大学看護学部助教、2015年埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科講師				
所属学会(役職)	日本看護科学学会、日本助産学会(ガイドライン委員会委員)、日本母性看護学会、日本母性衛生学会、日本新生児看護学会、日本小児看護学会、日本家族看護学会、日本生殖看護学会				

【2015年度実績】

1. 研究業績					
	著作・論文・学会発表等の名称	単著・共著の別	(1)発行所、全ページ数 (2)雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ (3)学会名、開催都市	(1)(2)著者、編者名 (3)発表者(発表者は○印)	発行・発表年月
(1) 著作					
1	助産師基礎教育テキスト 2015年度版 第6巻 産褥期のケア 新生児期・乳幼児期のケア	共著	日本看護協会出版会, p.185-204(15頁)	浅井宏美, 江藤宏美著, 他11名 横尾京子編	2015.1
2					
(2) 論文					
1	NICUの看護師が認識する家族中心のケア(Family-Centered Care)の利点および促進・阻害要因	共著	日本看護科学学会誌, 35, 155-165, 2015	浅井宏美, 森 明子	2015.12
2					
(3) 学会発表					
1	Promotion and Barrier Factors that Nurses Perceived for Implementing Family-Centered Care in Neonatal Intensive Care Units in Metropolitan Areas of Japan	単著	18th East Asia Forum of Nursing Scholars (EAFONS), Taipei, Taiwan	浅井宏美	2015.3
2	Promoting Factors of Nurses' Family-Centered Care Behaviors in the Neonatal Intensive Care Unit in Japan	単著	The ICM AsiaPacifc Regional Conference 2015, Yokohama, Japan	浅井宏美	2015.7
3	NICUの看護師が認識する両親の24時間自由面会の利点	単著	第30回日本助産学会学術集会、京都市	浅井宏美	2015.3
(4) その他					
1	該当なし				
2					
2. 競争的資金等の研究					
	競争的資金等の名称	研究名、研究代表者・研究分担者の別			研究期間
1	該当なし				
2					
3. 教育業績					
	講義・演習・実習・論文指導等の名称	期間	概要(教育内容・方法等において工夫した点)		
(1) 講義					
1	ハイリスク周産期	2015.4~2015.7	4年次助産系履修学生を対象に、ハイリスク新生児とハイリスク妊産婦への看護の実際について講義した。実際の事例紹介や病棟内でのケアの画像、映像などを教材として活用し、実際の看護について理解が深められた。		
2	周産期のケア	2015.10~2016.2	3年次助産系履修学生を対象に、妊娠期の心理社会的変化や日常生活へのケアについて講義した。事例を活用したDVD教材の視聴、ガイドラインを用いてエビデンスのあるケアについて説明し、妊婦への看護について理解が深められた。		
3	母性看護学Ⅲ	2015.11~2016.1	2年次生を対象に、新生児の基本的な観察方法アセスメント、看護技術について講義した。新生児の実際の映像やモデル人形を活用し、理解が深まるよう工夫した。さらに、講義で説明したことを演習で、学生に実践してもらうことで知識と技術の定着を促した。		
(2) 演習					
1	分娩期のケア	2015.4~2015.7	分娩介助技術のデモンストレーションを行った上で、小グループに分かれて学生自身の介助技術に関する個別の指導やグループ毎の分娩第1期の看護(産痛緩和ケア等)に関する演習を実施した。		
2	周産期のケア	2015.10~2016.2	3年次助産系履修学生を対象に、模擬集団教育(両親学級)のための教育指導案や教育媒体(パンフレットやpptスライド)作成の指導を行い、グループ毎の発表会を通して、お互いの成果物に関する情報共有、評価を行い、実践的な学びにつながった。		
3	母性看護学Ⅲ	2015.11~2016.1	2年次を対象に、小グループに分かれて2人1組になり、新生児のモデル人形を活用し、バイタルサイン測定、全身状態の観察、体重・身長計測等、新生児の観察とアセスメントのための基本的看護技術について演習を行った。		
(3) 実習					
1	母性看護学実習	2015.5~2015.7	3年次生を対象に、産婦人科病棟において1週間×4クルールの臨地実習指導を行い、概ね期待した学習効果を上げることができた。		
2	総合実習(母性看護学領域)	2015.7	4年次生を対象に産婦人科病棟において1週間の事前事後学習、3週間の臨地実習指導を行い、4年次の実習目標を達成し、期待した学習効果を上げることができた。		

3	助産学実習Ⅱ	2015.8～2015.10	4年次助産系履修学生3名を実習施設担当教員として担当し、6週間+補習実習でほぼ7週間の臨地実習指導を行い、産婦に対する分娩進行状況のアセスメントとケア、分娩介助技術について期待していた実習目標を達成することができた。	
4	IPW実習	2015.10	学生5名を施設担当教員として担当し、施設ファンリテーターと共に実習指導を行い、チーム形成や対象者との関係構築など期待した学習効果を上げることができた。	
(4)論文指導				
1	学部生の卒業研究	2015.4～2016.1	看護学科4年次生3名の卒業研究の指導をゼミ形式や個別指導にて行い、論文提出後、母性看護学領域での卒業研究発表会での発表資料(pptスライド)作成まで指導した。	
2				
3				
(5)その他				
1	看護学科1年次生の学年担任としての学修支援、就職活動支援	2015.4～2016.3	1年次生の23名の担任として年間を通して、個別面談・指導等を行った。就職支援の一環である病院見学バスツアーの引率教員としてツアーに参加した。	
2				
3				
4. 社会貢献活動				
(1)講演会、研修会等の講師				
	講演会、研修会等の名称	主催	講演、研修等のテーマ	開催年月
1	産科看護職対象の専門職講座	看護学科 母性看護・助産学領域	産後の母子の家庭訪問に関する理解を深め、県内の妊産婦への支援の充実を図ることを目的とした研修会の運営・準備。	2015.4
2				
3				
(2)国、自治体、財団法人等における委員等				
	国、自治体、財団法人等の名称	委員等の名称	任期	
1	一般社団法人 日本生殖看護学会	総務(事務局) 委員(幹事)	2012.9～2015.9	
2	一般社団法人 日本生殖看護学会	「日本生殖看護学会誌」専任査読委員	2015.9～現在	
3	一般社団法人 日本助産学会	ガイドライン委員会 委員	2008.4～現在	
(3)ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容	年月	
1	該当なし			
2				
3				
5. 学内運営(委員会委員)				
1	看護学科 就職支援プロジェクト委員会メンバー			
2				
3				
6. 受賞(研究、教育、社会貢献活動に関するもの)				
	受賞名	主催	受賞年月	
1	該当なし			
7. 特許の保有状況				
	特許名	特許番号	登録年月	
1	該当なし			
8. 特記事項				
	該当なし			